

21/1/8 特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議（第36回）
（名古屋市民オンブズマンによるメモ）

13:00

鈴木整備室長:はじめる
局長から挨拶

松雄:新年早々ありがとう
首都圏緊急事態宣言 誠に心苦しい
様々な角度から有識者に検討いただいていた
今週水曜日 文化第二課長 意見交換
木造復元事業適宜報告してきた その旨認識している
解体申請については、市の考え方がまとまり次第文化庁に提出次第
なるべく早く文化審議会で審議したい
有識者会議も文化庁職員を派遣したい
解体、復元 パイプとして来年度も文化庁に市職員を派遣したい

鈴木室長:出席者紹介
議事に入るので撮影はここまで

現状許可申請まとめ 参考配布している

瀬口:資料説明して

鈴木室長:本丸搦手馬出周辺石垣 修復について

名古屋城:修復状況
搦手 2002年度から
今後のスケジュール 資料1-13 4年程度で積み直ししたい

13:19

瀬口:質問は

高瀬:石垣修理は伝統工法でやるのが基本
内側盛土 削って斜路 おかしい
堀側に足場を作るべき
地山も保存すべき

抵抗もっていたのか？
大きな間違い
いまさら言ってもしょうがない
やむを得ず現代補強 最小限にすべき
前の地盤に杭 固める
伝統的とは言えない
おかしい
石垣修理報告書は作っているのか？

名古屋城:修理報告書は作ってある

高瀬:みた記憶がない
解体だけでも16年ほどかかっている
聞いたことない
範囲がどうだったのか 問題
報告書を はらみ出し要因
20年を超える報告書はきちんとしたものを作って

瀬口:お願い

名古屋城:解体の範囲
1-3 赤線 石垣の下側に集中
地山を掘削した
安全性が保たれない

高瀬:下3分の1はらみだしは普通
崩壊しないかどうか
修理していない石垣も沢山ある

鈴木室長:20年前弱に始まった
当時の判断 今と違っていたかも
検証するのが難しい
現代工法 最小限に
まずは伝統工法
今求められている安全性確保のため
一連の事業報告書 作成する必要性はある
終わった後では大変 順次作っていきたい

瀬口:解体時にまとめておかないと
すでに失われている

赤羽:20年近く時間が立っている
担当者が辞められている
どこまで到達点 確認されてこなかったのが1番の問題
今日再確認 これからの石垣にとっては大きな前進

安全性、安定性と真正性 理念はどこでどう選択するか 悩ましい事柄
私も途中から参加したが感じた
出来るだけ伝統的に
やむを得ず近代工法は賛成
3案4案
現場の棟梁、担当者の意見も取り入れてやって

鈴木室長:これまで解体 全体会議 概ね1年に1回報告してきた
その都度累積した形でやってこなかった
単年度ごとに報告してきた
はじめて一連事業をまとめた
今後も事業を進めたい

瀬口:他は

小浜:まとまった資料を見るのははじめて
変状メカニズム 修復計画
はらみだし 地盤沈下した?わからない
土圧によって
私は土圧だと思ってる
土も動いているはず
体積 上は沈下したのか?
解体した後、盛り土も解体したのか?

名古屋城:観察 上の沈下はなかったと引き継いだ
傾斜硬化面 10センチ上で掘削を止めている
今後対策する

小浜:沈下してなければ、空洞ができたのか？

名古屋城:資料 1-3 少し下がっている
解体しながら確認 空隙は見られなかった

瀬口:ボリューム的にあうか？

小浜:よくわからない かなりの量

三浦:3点聞きたい
1-3 立面図 青線 上が書いてない
認定してないのか？

名古屋城:積み直しのようなラインとは

三浦:右の方 線
東面も検討して

名古屋城:裏面の盛り土の関係 わかりやすかった
東面 推定の度合いがちがう

三浦:1-5 ステップ2 軟弱地盤
築石だけが下がるわけではない
沈下するはず
地震が起きたとき 変異が大きい
築石 大きくはみ出したとき、上からおこちる 戻らない
通常のハラミだしのメカニズム
「軟弱地盤だから地震動に弱い」
天和に無くなったもの

名古屋城:地震動 検討が足りない部分があった

三浦:立面図 天和積み替え 変状の原因
今後報告書 どれが逆石だったか
図の中に
科学的な論評ができない

鈴木室長:御助言ありがとう
資料作る

瀬口:他には

丸山:現場 どうぎ ヒノキ
持つのか?

鈴木室長:根石の下にある場所、ない場所
慶長期のものであろう石垣 触らずに積みなおそう
学術的な研究は続けたい

瀬口:他にはよいか
いただいた意見 解体の方針は間違いがあったのでは
報告書 検証を
ハラミだしメカニズム 科学的論評になってない
力学的に説明になってない

三浦:1-13
修復の工程
要望
完成するのは2018年
名古屋城の縄張り 最も優れておるのは鶯の首
完全に残ってるのは1箇所
御深井丸との境だけ
柵があって見えない
バリケードをとって欲しい
あと8年 見学ルートを
天守閣木造復元が始まればまた別だが
検討を

名古屋城:長い間工事ヤード
これから解体作業で検討

三浦:開放しても、工事に使われていることを見たことがない

瀬口:他はないか

丸山:市民、国民 情報
展示する
大阪城 秀吉石垣写真展示
長期にわたって見られない 立ち入り禁止
広報的なことも考えて

瀬口:現状変更に

鈴木室長:今年度で切れるので、手続きしたい
内容は検討したい

瀬口:期間が切れるということか
内容は検討したい
部会で検討を
カヤの木剪定について

13:55

名古屋城:カヤの木剪定について
樹齢 600-700 年ほど
文化庁調査官と相談してやる

瀬口:質問は

丸山:樹勢回復
剪定、土壌回復
生育環境の改善
なぜ切るか カヤの樹勢回復に向けて
樹木 生きたいから先に伸ばして
しける コケも生える
時期 3年くらいかける
樹木医の相談して

赤羽:カヤの実を食べて元気になった
実はついているのか？

名古屋城:相当数ついている
地面に落ちる
毎年実はなっている

赤羽:根回り調査は

名古屋城:2012年調査した
2013.2015年土壌改良
2回目土壌改良のときに調査した
地下部 詳細 2回目は見た

赤羽:根回り 入らないように措置
西の丸外構工事予定
樹勢回復 総合的な検討
外構工事の設計にも反映を

名古屋城:周りの保存は大事
調整してる

小浜:枝を切る 効果はあるのか?
2-2 上の方の葉が多いみたい
2013年 下枝を切ったのか?
過去にも剪定 効果があったのか

名古屋城:2-2 写真
下枝切った
土壌改良の影響
上の方がよくなった
下も繁茂している
風通しをよくして菌を防ぐ

丸山:植栽管理ができていない
どう管理していくのか
場当たりに土壌改良しましょう、切りましょうではなく、計画的に
名古屋城の魅力が出てこない
マンホールがあったり
移設しようとしたらできる

カヤをどうしていくかが抜けている
この木が大切ならどういう方向性が
赤羽 実がなるか？
死にそうなら実をつける
危ない
実がついていれば元気というわけではない

瀬口:カヤの木 管理計画を作って欲しいという意見が出た
軽微な現状変更 文化庁に届出ないで了承いただけるか
10分間休憩したい

鈴木室長:10分後に再開

14:21

瀬口:再開したい
議事は終わり

鈴木室長:ありがとう
1点報告
毀損地点調査

村木:不適切な施工があった
遺構の毀損 確認検証
調査終了した
報告する

名古屋城:西の丸発掘調査
昨年1-3月 展示収蔵施設
資料3-9
六番蔵 10月検討会議で報告した
掘削が近世面に達してないか検証した
五番蔵周辺
コンクリート基礎 第二、第三
スロープ基礎 第四
間地石水路 第五、第六
形跡 第七-第十
資料3-1表

全ての工事 現代、近代
近世には達してない
破壊した可能性はあった
立ち会いなしで工事はしない
五番蔵の位置調査は来年度行う

鈴木室長:意見は
ありがとう
全て終わった
14:28